

# Bonjour

ボンジュール!!

2016年  
10月11日号

Vol.325



## 10月の見通し 波立つ潮の変わり目

### ● 株式をやや強気から中立へ

年末に向けて世界経済が上向く兆しはあるものの、短期的には米大統領選などの不透明要因に警戒が必要であることからピクテ・グループの短期的な投資環境見通しは株式の評価をやや強気評価から中立へ引き下げます。

### ● それぞれの金融政策

世界経済の勢いが増すなか、米連邦準備制度理事会(FRB)が追加利上げに踏み切る公算も強まっています。ピクテは12月の利上げを予想しており、米国経済も利上げに耐えられるだけの強さがあると考えています。

一方、日銀は9月21日の金融政策決定会合で総括的検証を行ない、長期金利の操作に軸足を置いた新たな枠組みを導入すると発表しました。黒田総裁の大胆な金融緩和策は転機を迎えています。ECBでもマイナス金利や量的緩和策の見直し機運が強まっており、主要中央銀行による資金供給量がピーク時と比べて半減する可能性が現実味を帯びてきそうです。

金融政策の変化に加えて、11月に行われる米大統領選挙などの政治イベントにも注意が必要です。世論調査では民主党のクリントン候補が共和党のトランプ候補をリードしていますが、英国の国民投票が世論調査と逆の結果になった苦い経験から、市場は疑心暗

鬼になっています。選挙が近づくとつれて市場は神経質な動きを強めるでしょう。

### ● 漁師は潮を見る

今年は親潮(寒流)の勢力が弱く日本近海の海水温が下がらないため、秋刀魚が不漁で高値が続いています。漁とは気象や潮の流れなどを総合的に判断しなければならないのですが、相場の世界でも「**漁師は潮を見る**」という格言があります。市場のトレンドを俯瞰しながら投資判断することの大切さを意味しています。

足下の市場環境を見渡すと、潮目の変化を感じさせる兆候が見られます。年初から20円以上も円高に振れた為替相場は、米ドル需給の逼迫感を背景に緩やかなドル高に転じる可能性があります。そうなれば年初から10%以上も下落している日本株に対する見方も次第に前向きなものに変わってくると期待されます。

しかし、潮の変わり目は波も高くなるもので、債券利回りが急上昇すれば株式市場全体に悪影響を及ぼす可能性があります。また、米大統領選挙に代表される政治リスクにも警戒を怠ることはできません。

**このため、今は足下の株価上昇のタイミングを利用して一時的に手持ち現金比率を引上げ、不透明感が薄れた後の本格的な買い動に備えるのが得策ではないでしょうか。**